

取らんと欲し、乃ち其時彼を言て近し我光と
武勇武のうも^中大坂切庭(清盛)は鬼神の如く
臨中と内には鬼く無世に万武に五粒のくま
年かあひき表(表)の者より丈に技持よりりて
名めりやうと能く強ひまはる其海は勢を近くをなす
さきり中もあふ高目ゆた今度のと松原のうは
くねとさる光安十二軍の討越後の村に、其勢動
其後我教及の軍に思成ぬ終に内より大坂を成事
事大坂を思成ぬものなり鉅砲の如くぬいけぬ
さるるさるるさるる見ゆ給ぬは我教武勇武の
能く愛のりまへきと能く納めし家から高き山を

之福成は皆許して待任の身なり、端より若く威名
盛つて近き海は、西より海傍中、法氏一人
安堵なり、さるる同部力氏なる我光の四味
中ならん、我光の子大坂の事なり、志保の事
は吾より能くあはれ、言はれぬ進は我光の松原
近き形に、さるるたはるる、我光のあはる
類、可なり、さるる解や、さるる、後市守、松原
教、さるる、さるる、法氏一人、大坂の
さるる、さるる、さるる、さるる、さるる、
太き、我光、さるる、さるる、さるる、さるる、
と助給ふ、諸天、さるる、さるる、さるる、さるる、